

人類生態班 B

ラハナム地域の初等教育事情
金田英子（長崎大学熱帯医学研究所）

はじめに ―これまでの経緯―

人類生態班は 2003 年 8 月に、ラオス国立公衆研究所を受け入れ機関とし「ラオス健康開発調査プロジェクト（Health Development Study in Lao P.D.R.: HDS）」の協定を締結した。11 月にはラオス国政府より正式に調査許可を受け、12 月にラオス側の要望を受け入れサバナケット州ソンコン郡を調査地を選定、州レベルで覚書（Memorandum of Understanding: MOU）の調印式を行った。そして 2004 年 2 月、MOU 締結後の初めての調査が実施され、事実上、班としての研究・調査活動が開始された。

2 月の調査では、12 のユニットから成る人類生態班のうち、「加齢・老人保健ユニット（Aging and life, health, and welfare of senior people）」「学校保健・土壌寄生虫・健康教育ユニット（School health and soil transmitted helminth）」および「医療人類ユニット（Medical anthropology）」が合同で調査地に入った¹。ここに、「学校保健・土壌寄生虫・健康教育ユニット」が収集した、ラハナム地域の学校教育に関する資料の全容を報告する。

調査地の概要

サバナケット州の中心地、カンタベリから南へ約 75 km に位置するソンコン郡のパクソンは、サバナケットとパクセイを結ぶ幹線道路沿いに位置している。隣国タイとはメコン河を国境としていて、タイからの物資の輸入やタイ語放送の受信を中心とした情報の入手が容易である。また、タイへの出稼ぎ労働者も年々増加傾向にあり、地元の経済力低下につながるとして問題になりつつある。

調査地としているラハナム地域²は、郡の中心地から東へ約 9 km のところで、日本を中心とした灌漑用水プロジェクトが介入しており、大規模な二毛作が行われている。また、国際協力機構・青年海外協力隊の派遣により、女性に対して織物の技術移転が行われ、サバナケット特有の織物として商品化され日本にも輸出している。



ラハナム地域は、ベンカムライ、ラハナムトン、ラハナムタ、ターカムリアン、ドンバング、コックホックの 6 村から成っており³、主にプータイ族とラオ＝ルン族で構成されている。各村の人口は表 1 に示すとおりである。人口センサスは、1995 年に政府が大規模な調査を実施したものを最新情報としている。

表 1 ラハナム地域の村名と世帯数および人口

(1 March 2004)				
map no	village	household	population	servry
①	Bengkhamlay	137	880	1995
②	Lahanam thong	210	1,266	1995
③	Lahanam tha	151	1,012	1995
④	Thakhamlian	83	543	1995
⑤	Dongbang	39	223	3/2004
⑥	Kokphok	48	308	1995
Total		668	4,232	

地区の境界となる北西を流れるバングヒャン川は、雨季になると氾濫を起こす年もあり、川近くにある、ラハナムトン、ラハナムタ、ターカムリアン、ドンバングが被害地となる。

村への主要交通機関は、トゥクトゥクと呼ばれる乗合タクシーかトラクターで、雨季にもアクセスは可能で

ある。電気は普及しているが、上下水道は完備されていない。

マラリア・コントロール・プログラムの成果が現れ、この地ではマラリアは深刻な問題ではない。しかし近年デング熱が問題となりつつあり、前年には死亡者も報告されている。

当地域には、1 ヘルスセンター、1 薬局がある。1986 年まではソンコン郡の中心地で、郡事務所の跡地は現在、ラハナム小学校として使用されている。

ラハナム地域の初等教育事情

現行の学校教育制度は、図に示すとおり、小学校は義務教育で 5 年間、就学年齢は 6 歳である⁴。小学校の就学状況については、表 2 のとおりである⁵。粗就学率、純就学率ともにソンコン郡は、全国やサバナケット州より高い。このことは、就学率はよいが、年齢に応じた学年に在籍している児童数が、全国やサバナケット州レベルに比べて少ないことを示唆している。

全国の識字率（15 歳以上で、読み書きともに可能）は、全人口の 52.8%（男 67.5%、女 38.1%）と報告されている⁶。

ラハナム地域には、5 小学校と 1 中学校がある。当地域の小学校は、小学校名と所在地の村名が一致していない。5 小学校のうち 2 校は分校で、うちコックホック村では第 1、第 2 学年のみ、ラハナムトン村では第 1 学年から第 3 学年が開校されている。それ以上の学年になると、前者はドンバング村の学校に、後者はラハナムタ村の学校に通学することになる。しかし、コックホック村は、児童数の減少にともない、来年度⁷には廃校となることが決まっている。各小学校の教師数および児童数は、表 3 に示すとおりである。

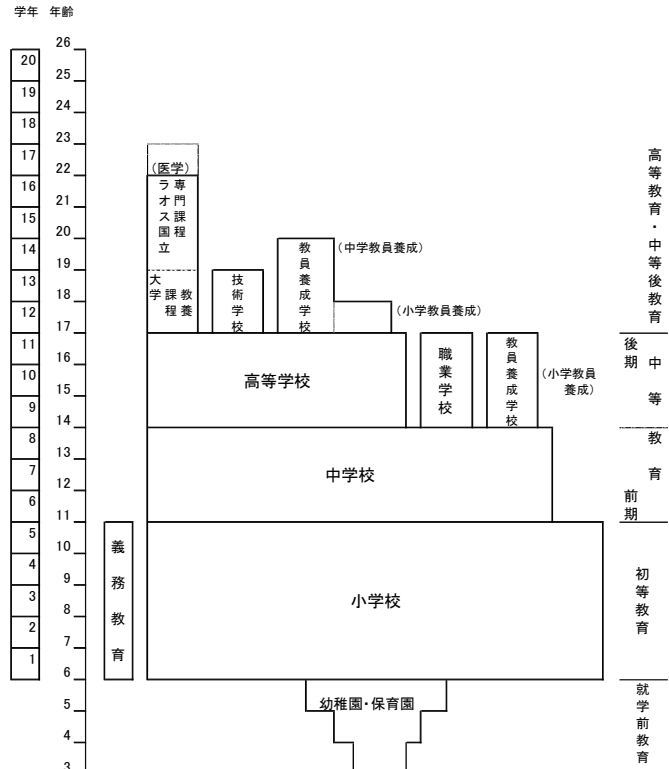
ベンカムライ小学校は、日本政府の援助で数年前に新校舎が建設された。その際校舎近くにトイレも作られたが、水供給がないため事実上は全く使用されていない。

ラハナム小学校は人口が密集している地域にあるため、5 校の中で最も規模が大きい。教室数が不足しており、第 1 学年は旧民家を教室に、第 4 学年は隣接するヘルスセンターの 3 部屋の

うちの 2 部屋を教室として借用している。幼稚園もあり、1 教室を校長室と仕切って使用している。昨年より、新校舎を建設するため基礎工事に着工したものの、予算不足のため、工事が中断された状態になっている。

ターカムリアン小学校は、3 教室が仮設教室であるが屋根はある。しかし来年度より分校が廃止されると第 1 学年より本校への通学となるので、教室数の不足が予想される。このように、どの小学校も校舎の問題を抱えている。

教科書は、ベンカムライ小学校は足りているが、他の小学校は不足している。最も発行されている教科書は



ラオスの学校教育制度

表 2 小学校の就学状況

		全国 (1998年)	サバナケット州 (2003年)	ソンコン郡 (2003年)
対象年齢人口 (6-10歳)	男	-	112,073	10,572
	女	-	55,371	5,044
	合計	744,470	167,444	15,616
児童数(1-5年)	男	-	119,600	12,843
	女	-	54,880	6,075
	合計	872,664	174,480	18,918
対象年齢児童数 (6-10歳)	男	-	95,562	9,996
	女	-	45,299	4,813
	合計	568,832	140,861	14,809
粗就学率(%)	男	-	106.72	121.48
	女	-	99.11	120.44
	合計	111.2	104.20	121.14
純就学率(%)	男	-	85.27	94.55
	女	-	81.81	95.43
	合計	76.4	84.12	94.83

表3 ラハナム地域の小学校および教師数と児童数

name of school	Location	teacher		grade 1		grade 2		grade 3		grade 4		grade 5		total		
		female		boy	girl	boy	girl	boy	girl	boy	girl	boy	girl	boy	girl	total
Lahaman (1-5)	Lahanam tha	3	7(1)	48	55	31	49	17	40	46	46	31	19	173	211	384
Lahanam (1-3)	Lahanam thong	2	2	48	27	10	22	14	12	-	-	-	-	38	61	99
Thakamulian (1-5)	Dongbang	3	3	48	14	13	16	14	11	12	10	10	14	57	65	122
Thakamulian (1-2)	Kokpho		1	48	11	6	6	-	-	-	-	-	-	8	27	35
Bengkhamulay	bengkhamlai	5	1	48	22	18	16	12	19	9	14	10	5	67	76	143
total		13	14(1)	240	129	78	109	57	82	67	70	51	38	343	440	783

() = nursery school * = join the class

政府のもので、「ラオ語」と「算数」は第1学年から第5学年まで、「私たちの身の回り」は第4学年と第5学年、それ以外の「芸術」、「体育」、「音楽」、「工芸」は、教科書自体が作成されていない。教科書は市販もされており、個人の購入も可能ではあるが、個人で購入する児童は少ない。

当地域の小学校の特徴は、児童が徒歩15分以内で通学することが可能な距離に設置されていることである。このことは、児童の就学率を高めている。教師も9割以上が、ラハナム地域に居住している。したがって昼休みになると教師や児童は自宅で昼食をとることが可能で、日本のような学校給食制度は必要ない。それゆえに、家庭での食生活習慣が児童の栄養状態に大きく影響してくる。このように、自宅から近距離に小学校が配置されているというのは、ラオスにみられる小学校教育の特徴の一つと言って過言ではない。しかし、近い将来、教師のマネリ化や質の問題、村落間や都市部との教育格差が問題になるであろうことは容易に想像できる。一方で、健康教育・管理の面においては、小学校そのものが地域内にあるため、村民と一体になった諸種の対策（例えば、栄養対策、寄生虫対策、マラリアやデング熱の原因となる蚊対策など）が可能である。

また、ラハナム小学校とターカムリアン小学校は、ヘルスセンターから近距離にある。したがって、ヘルスセンターの機能を充実させることにより、乳幼児期の健康診断のみならず、小学生の健康管理も期待できる。具体的には、日本の小学校に見られる保健室機能を持たせ、定期健康診断を実施するなどが考えられる。

注記および参考文献

1. 各ユニットの詳細は、http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/moji/Laos_Project_Title_Page_e.html上に公開。
2. 地域の区分方法は、行政区、教育区、保健区など多種類あるが、本プロジェクトでは、保健区の地域区分を対象としている。保健区の地域区分の基準は、1地域にヘルスセンターを1つ以上設置することで、そのヘルスセンターから8km以内、または徒歩2時間以内、かつ人口2,500人から4,000人(3,800人が望ましい)に対し1ヘルスセンターに位置する村が対象となる。
3. 実際にはドンカンパー村もラハナム地域に属するが、約6年前に村ごと移動し、現在は22km以上離れたところに居住しているため、調査対象外とした。
4. 木内行雄『ラオスの学校教育と教員養成』国際協力事業団、p3、2000（非売品）
5. 全国のデータは前掲書4（p4）より、サバナケット州とソンコン郡については、州教育事務所からの情報をもとに作成した。

粗就学率とはある学年度に年齢にかかわらず特定のレベルに就学した子どもの総数であり、同じ教育レベルの公式就学年齢人口に対する割合として表される。純就学率とは、一定の教育レベルにおいて、教育を受けるべき年齢の人口総数に対し、実際に教育を受けている（その年齢グループに属する）人の割合のことをいう。

6. The World Factbook (<http://www.cia.gov/cia/publications/factbook/geos/la.html>) の2003年推定による。
7. ラオスでは、6月から8月が長期休業となる。また5月は試験期間のため、授業は実施されない。それ以外の長期休業はない。